

# 学校全体で取り組む品格教育の成果について<sup>1)</sup>

— 2年目校と3年目校の直接的効果の比較 —

青木多寿子・高橋智子<sup>1</sup>・柴英里<sup>2</sup>

(2012年10月2日受理)

The Measurement of Direct Effects of Character Education in Whole Schools Approach.  
— The comparison between the second year schools and the third year schools —

Tazuko Aoki, Tomoko Takahashi<sup>1</sup> and Eri Shiba

**Abstract:** The purpose of this study is to clarify the direct effects of character education. We examined the difference between two groups; the second year schools and the third year schools. Participants were totally twenty five hundred and forty four children and students from the fifth grade to the eleventh grade on elementary schools and middle schools. They are having character education with the fixed same nine virtues. We used the recognition tests of nine virtues and sentences on the posters as direct measures in research one. We also examined the consciousness about the relation between the perspectives of the future and the nine virtues (research 2). Additionally we examined the relation between the consciousness about their ability to put the virtues into their action. We found the higher rates of recognition in third year schools than the first year schools. These results means that character education in whole schools approaches let the children and students recognize more the fixed nine virtues. However, we did not clearly find difference in research 2 and research 3 because of the instability on the results of middle school students. We discussed that we need to do researches more long spans to examine the character education.

**Key words:** character education, direct effects of intervention, comparison of spans of the intervention, whole schools approach

キーワード：品格教育，介入の直接効果，2年目校と3年目校の比較，学校全体

近年、アメリカの教育改革が注目を集めている（青木，1999，2002；加藤，1999，2004，2006；水野，2005）。アメリカの教育改革の成果が表れた要因は複数あるが、その一つが品格教育（character education）だと言われている（加藤，2004）。

品格教育とは、子ども達がよい行為とはどのようなものかを知り（knowing）、よい行為をとれるようになることを望み（desiring）、よい行為を実際に行う

ことで（doing）、子ども達が自分自身の生活を良い方向に導くように援助してゆく教育であり、知力の習慣（habit of the mind）、心の習慣（habit of the heart）、そして行為の習慣（habit of action）から成り立つ“3つのH”の教育だと言われている（Lickona，1992 三浦訳 1997）。

日本において、品格教育と類似のものとして道徳教育がある。しかし、道徳教育の主眼が“子どもたちに特定の道徳的価値を気付かせることで、その結果を日常生活の実践に活かせるように促すこと”に置かれるのに対し、品格教育の主眼は、“品格に関わる行為を

<sup>1</sup> 駿河台教育振興会

<sup>2</sup> 高知大学教育学部

させることでそれらを習慣付けること”に置かれるという点で異なるとの指摘がある(吉田・村田, 2011)。たとえば、品格に関わる行為として敬語が考えられるが、敬語を使う習慣のある人は、どんなときでも難なく敬語を使いこなせる。もっとも簡単な生活場面でたとえるなら、就寝前に歯を磨く習慣のある人は、夜になって寝ようとするときは洗面所に行き歯ブラシを手にする。社交性も品格の一つで、社交性のある人は、自ら進んで話しかけて積極的に関わるといった習慣を形成している。つまり、品性は、それを具体的に発現する習慣によって示される(新, 2011)。これまで品格教育を牽引してきたRyan(2010)は、子どもがよい人間になるためには、よい習慣をつくり、よくない習慣を削ること、そしてそのことは自分自身にしかできないことであることを子どもに理解させることが重要であると指摘している。

習慣は繰り返せば繰り返すほど身につくやすい。そこで品格教育で重視される、“よい行為の習慣づくり”は、すべての教科を通し、学校生活のあらゆる場面を通して行われる(Ryan & Boholin, 1999)。また、よい行為の習慣づくりは、学校教育場面だけでなく、保護者やコミュニティを巻き込み、家庭でも声をかけてもらうことが推奨されている(Ryan & Boholin, 1999)。加えて、地域にも参画してもらえば、未来のよい地域住民を地域で育てることに繋がる。このように品格教育とは、学校と家庭、地域と力を合わせて、義務教育の全ての年限を通して、子ども達が親切で温かみのある、責任感のある市民になるように力を合わせてゆく教育でもある(cf. Blue Valley USA, 1998)。

それでは品格教育で上げられる品格にはどのようなものがあるのだろうか。アメリカの教育改革に影響を与えた教育学者Boyer(1995)は、取り上げるべき品格として、礼節、責任、根気、奉仕、自律、誠実、寛容の7つを挙げている。また、品格教育の主導者であるLickona(1992 三浦訳 1997)は、誠実、公正、寛容、分別、自己訓練、援助、協力、勇気の8つを挙げている。品格教育では、道徳教育の視点に比較すると、品格に関わる短い言葉を数少なく選んで、学校全体で繰り返し取り組む場合が多い。そして、生涯にわたって暗記できる程度のこれらの言葉は、自分自身で自分の人格を高める方向に働きかけることを容易にしていると考えられる。たとえば、自分の行為を自分自身で振り返ったり、「どの方法が一番、誠実な方法だろうか」「どのやり方が一番、真に勇氣ある行動だろうか」など、生涯にわたって自分自身で自分の行為を選択する際の指標になりうる(青木, 2011)。

しかし、品格教育に関して、その効果は学業成績と

の関係、出席率の低下など、間接的な指標で示されているものはあるが、児童・生徒への直接的な影響を調べているものは少ない。そこで本研究は、品格教育で取り上げているテーマについて、①再認テストを行い、テーマの定着率を示すこと、②テーマと将来の展望の関係をどう考えているのか、③テーマと実際の行為の関係についての意識を調べることを通して、品格教育での試みの成果を直接的に検討することを目的とした。

## 方 法

**対象とした学校について** 対象としたのは、学校全体だけでなく、小中連携で共通のテーマを掲げて、小中一貫の9年教育に取り組む学校である。今回は品格教育に取り組む始めて2年目の学校と3年目の学校を対象に調査した。これらの学校は、地域の保護者アンケートの結果等から、共通のテーマを9種類(あいさつ、思いやり、責任、良心、勇氣、公共心、フェア、感謝、やりぬく心)選択し、毎月、全学校で同じテーマを1つ取り上げている。学校では、この毎月のテーマを、家庭や地域へ発信して周知を図るだけでなく、道徳教育や生徒指導、特別活動に活用している。

これらの学校では、毎月のテーマに関するポスターを9種類作成して学校中に掲示してテーマを掲げている。これは児童生徒が自ら、テーマについて意識化する機会を増やし、児童生徒が主体的によい習慣を培ってゆけるようにするためであり、地域の協力を得て公共施設にも掲示している<sup>2)</sup>。

これらのポスターは、毎月のテーマと、そのテーマに関わる具体的な行動で構成されている。そこで本研究では、この9年一貫で取り組む共通のテーマとそのポスターに記載されている文言の記憶の再生率を用いて、品格教育の取り組みの成果を測定することにした。

調査実施時期は6月から7月であったので、2年目の学校(以下、1年校)の児童生徒は、各テーマに一巡触れており、3年目の学校(以下、3年校)は、各テーマに二巡触れていることになる。ただし、1年校は、平成20年試行、21年本格実施であった。ここでは試行とは、必ずしも取り組みを実施する必要のない期間だと考え、本格的に取り組んだのは2年目だと考えて1年校とした。3年校は、平成19年の段階から研究指定校に指定されている学校であり、平成19年度から本格的に取り組んだと考えると3年校とした<sup>3)</sup>。

**参加者** 1年校、3年校の学校とも小学校5年生、6年生、中学1年生、2年生が調査に参加した。参加人数は2,544人であった。

Table 1-1 質問項目の具体的内容

番号	項目内容	番号	項目内容
q1_1	「ありがとう」と言います [感謝]	q1_13	勇気 [勇氣]
q1_2	フェア [フェア]	q1_14	科学 [ダミー]
q1_3	「いってきます」と「ただいま」 [あいさつ]	q1_15	広い心で受け入れます [フェア]
q1_4	思いやり [思いやり]	q1_16	公共心 [公共心]
q1_5	体力をつけます [ダミー]	q1_17	一步一步努力します [やりぬく心]
q1_6	公共物などへの落書きはしません [公共心]	q1_18	感謝 [感謝]
q1_7	責任 [責任]	q1_19	国際性 [ダミー]
q1_8	友だちにも、自分にも誠実に [良心]	q1_20	あいさつ [あいさつ]
q1_9	スピード [ダミー]	q1_21	最後までやり遂げます [責任]
q1_10	素直に謝ります [勇氣]	q1_22	良心 [良心]
q1_11	やりぬく心 [やりぬく心]	q1_23	幸福感があります [ダミー]
q1_12	生きる力を高めます [ダミー]	q1_24	親切を心掛けています [思いやり]

**調査内容** 取り組みの成果を直接検討する方法として、①ポスターの言葉を使つての記憶の再認テスト(ことばをみたことがあるかどうか)、②ポスターの言葉と自分の将来的な展望との関係、③ポスターの言葉と実際の行為との関係を検討した。

## 調査 1 (再認テスト)

**方法** 質問項目は、毎月のテーマについて、①テーマそのものと、②ポスターに記された文言が記憶に残っているかを調べた。質問項目には、比較の為に、ダミー項目(ありそうだけれども、実際にはなかった項目)として、単語を3つ、文章を3つ入れた。児童・生徒は、これらの項目について「ポスターの中にあつたと思うか」を「はい」「いいえ」から選択する方法で回答した。Table 1-1にアンケートに用いた質問を示した。

## 結果と考察

### 1) テーマそのものの再認率

**1年校と3年校の比較** ここではテーマそのものの、ことばの再認率を比較してみた (Table 1-2)。全体

的に、「良心」「公共心」「フェア」を除くと、90%前後の正答率を示している。正答率の低いこの3つは、いずれも3年校の方が高くなっており、繰り返しの教育成果の現れだと推察できる。

**学校種による違い** 小学生には1年校と3年校では余り差はないが、中学生の3年校の再認率が高いものが多いことがわかる。中学生では、繰り返しが記憶に残って定着している様子が窺える。しかし他方で、中学生になると、テーマの大半で再認率が小学生より下がっていることがわかる。

### 2) 文言の再生率

**1年校と3年校の比較** ポスターに書かれた文言について比較したのが Table 1-3である。小学生では、3年校の方がほとんどの項目でポスター内の文言の再生率が高い。中学生は1年校と3年校では、半々程度である。学校種を込みにした全体の再生率では、3年校の方で再生率が高くなっているが、これは、小学生が全体を押し上げた結果と思われる。また、ここでも中学生の再生率が小学生より低いことがわかる。そこで次に、小学生と中学生の正答率の差を降べきの順で示して、中学生での正答率の低下の原因を調べてみる。

### 3) 小学生と中学生の違いは何か

**目的** 中学生になると、再認率が下がるものが多いこ

Table 1-2 テーマの再認率 (学校種別)

	1年校			3年校		
	小学生	中学生	全体	小学生	中学生	全体
あいさつ	95.2	93.8	94.5	97.4	95.3	96.7
思いやり	97.3	97.3	97.3	97.2	95.5	96.6
責任	93.8	96.0	94.9	93.4	92.1	92.9
良心	66.4	44.4	55.8	68.7	45.3	60.5
勇氣	92.4	78.4	85.7	90.4	84.3	88.2
公共心	74.7	75.7	75.2	79.0	81.3	79.8
フェア	86.0	78.6	82.4	84.4	80.2	82.9
感謝	96.2	92.0	94.2	96.8	92.2	95.1
やりぬく心	91.9	87.2	89.6	90.8	90.3	90.7
ダミー						
スピード	88.2	79.7	84.1	87.9	82.9	86.2
科学	95.9	87.3	91.8	91.2	90.4	90.9
国際性	90.0	81.4	85.9	87.6	79.9	84.9

■ ; 3%以上差があつて高いもの、■ ; 6%以上差があつて高いもの

Table 1-3 ポスターの文言の再認率（学校種別）

	1 年校			3 年校		
	小学生	中学生	全体	小学生	中学生	全体
あいさつ	58.3	33.7	46.5	66.9	34.0	55.3
思いやり	38.9	37.8	38.4	41.6	38.4	40.5
責任	50.6	36.2	43.7	59.9	38.8	52.4
良心	96.2	86.9	91.7	92.2	91.5	92.0
勇気	62.9	26.8	45.7	68.4	26.2	53.6
公共心	60.9	29.5	45.8	67.1	32.4	54.8
フェア	51.3	38.3	45.1	56.6	35.1	49.0
感謝	71.0	65.1	68.2	77.5	60.4	71.5
やりぬく心	36.1	38.4	37.2	42.2	34.5	39.5
ダミー						
q1_5	86.4	84.5	85.5	86.3	84.3	85.6
q1_12	73.1	67.4	70.4	68.7	70.4	69.3
q1_23	76.8	80.3	78.5	72.6	83.6	76.5

□; 3%以上差があつて高いもの, ■; 6%以上差があつて高いもの

とがわかった。そこで、再認率低下の要因を探るため、「『小学生の得点』—『中学生の得点』」を計算し、その差を降べきの順で示す（Table 1-4）。

**結果** 小学生の方が高い項目を見ると、「素直に謝る」「公共物への落書きをしない」「自分にも友だちにも誠実に」「広い心で受け入れる」「ありがとうと言う」など、自我の目覚めによる反抗期の現れを窺わせるものと、「最後までやり遂げる」というような、自己の内省力の高まりによって正答率が下がっていると思われるものがある。なお、1年校と3年校で、10%以上開きがある上位7つのうちの6つが、1年校と3年校で同じだった（補足資料資料1, 2）。つまり、中学生の

再認率の低下は、品格を高めようとする学校の取り組みのため、と言うよりも、思春期、反抗期、自己内省力の高まりという発達によるものと考えられる。

### 3) 全体から見た場合

学校種を込みにして、テーマについての質問各2種類（①テーマそのもの、②ポスターの文言）の両者の再生率の平均値を比較したものがTable 1-5である。これを見ると、ダミーには差がないが、3年実施校の方で再認率が高い様子うかがえる。つまり、3年間、教師からテーマについて話を聞き、ポスターに触れることで、児童・生徒は、テーマとそこに書かれている文言をよく記憶に留めていることになる。次に、

Table 1-4 小中学生で差の大きい項目は何か

カテゴリ	項目内容	全体			
		小学生	中学生	差	
q1_10	勇気	素直に謝ります	66.9	26.5	40.4
q1_6	公共心	公共物などへの落書きはしません	65.5	31.3	34.2
q1_3	あいさつ	「いってきます」と「ただいま」	64.6	33.9	30.7
q1_8	良心	友だちにも、自分にも誠実に	68.1	44.9	23.2
q1_21	責任	最後までやり遂げます	57.5	37.8	19.7
q1_15	フェア	広い心で受け入れます	55.2	36.3	18.9
q1_1	感謝	「ありがとう」と言います	75.8	62.1	13.7
q1_13	勇気	勇気	90.9	82.1	8.8
q1_19	ダミー	国際性	88.2	80.5	7.7
q1_9	ダミー	スピード	88	81.7	6.3
q1_2	フェア	フェア	84.8	79.6	5.2
q1_17	やりぬく心	一步一步努力します	40.6	36	4.6
q1_18	感謝	感謝	96.6	92.1	4.5
q1_22	良心	良心	93.2	89.8	3.4
q1_14	ダミー	科学	92.5	89.3	3.2
q1_24	思いやり	親切を心掛けています	40.9	38.2	2.7
q1_20	あいさつ	あいさつ	96.8	94.7	2.1
q1_11	やりぬく心	やりぬく心	91.1	89.1	2
q1_5	ダミー	体力をつけます	86.3	84.4	1.9
q1_4	思いやり	思いやり	97.2	96.2	1
q1_12	ダミー	生きる力を高めます	69.9	69.3	0.6
q1_7	責任	責任	93.5	93.6	-0.1
q1_16	公共心	公共心	77.9	79.2	-1.3
q1_23	ダミー	幸福感があります	73.7	82.4	-8.7

□10%以上差があつて、小学生の方が高いもの；■中学生の方がほんの少しでも高いもの

具体的な内容について比較してみる。

**1年校と3年校の比較** 3年校の方が高いのは「あいさつ」「公共心」など、社会的な規範に関する項目、「勇気」と言った道徳とは少し色合いの違う項目が高いことがわかる。逆に「思いやり」には差が見られないことから、道徳教育が主眼とする「道徳的な心情」に加えて、それ以外の部分が、今回の取り組みによって児童・生徒の記憶に知識としての残ったことがうかがえる。他方で個別に見ると、再認率が低いのは、「おもいやり」と「やりぬく心」となっている。

Table 1-5 テーマ別再認率(全体)

	1年校	3年校
あいさつ	44.9	54.2
思いやり	38.2	39.3
責任	44.2	49.2
良心	51.7	55.7
勇気	42.9	49
公共心	34.2	45.2
フェア	38.4	41.7
感謝	64.3	69.3
やりぬく心	34	36.8
ダミー	52.5	51

□; 3%以上差があって高いもの、  
■; 6%以上差があって高いもの

## 調査2 (将来への展望との関係)

学校での取り組みが、単にポスターを記憶しているだけではなく、生き方に影響を与えているかどうかを検討するため、ポスターのことはから選んだ文言を少し修正してTable 2-1のリストをつくった。ダミーについては、あまり好ましくない行為をで、しかも日常的に話題になるものを取り上げた。これにより、日常で耳にする頻度や、よくない行為が将来の展望に結びつく意識しているかどうかを確認した。そして「こ

のような行動を取ると、よいことが起こりそうか」について、1. 良いことがなさそう、2. あまり良いことがなさそう、3. 少し良いことがありそう、4. かなり良いことがありそう、5. とても良いことがありそう、の5段階で回答してもらった。さらに、3年実施校の方が、テーマに関わることについて将来への展望を感じている可能性があると考え、学校別に1年校と3年校をt検定で検討した。結果をTable 2-2に示す。

### 1) テーマと将来の希望の関係

**小学生の場合** ダミー項目以外は、すべて平均点が4を超えており、中には4.5を超えているものもある。1年校と3年校の違いは、ダミー変数1つに差は見られたが、他のどの項目では差は見られなかった。

**中学校の場合** 1年校は、「公共心」以外は、平均点が4を超えており、このテーマは将来に繋がると思っていることがわかる。加えてどの項目も、1年校の方が未来へのつながりがあると答えていた。ダミーに関しても、3年校の方が低いとは言えないことがわかる。

以上の結果より、学校の取り組みについて、1年校の方が、ポスターの文言に関わる行為について将来への展望を抱いていることがうかがえた。

## 調査3 (行為の実践との関係)

テーマに関して、実際によい行動を取っているかどうかを調べる。行動に関して尋ねた項目は、Table 2-1と同じである。これらについて、良い行動を取っているかどうかを5段階(1. やっていない、2. あまりやっていない、3. 少しはやっている、4. だいたいやっている、5. いつもやっている、の5件法;

逆転項目は、得点が高い方が良い行動になるように得点を修正した)で回答してもらい、学校別に1年校と3年校をt検定で検討した。結果をTable 3に示す。

Table 2-1 調査の対象とした項目

番号	項目内容
q2_1	自分から進んであいさつする【あいさつ】
q2_2	相手の気持ちを大切に行動する【思いやり】
q2_3	家族の一員として、家でお手伝いをする【責任】
q2_4	マンガ本をたくさん読む【ダミー】
q3_5	他の人に迷惑をかけることはしない【良心】
q2_6	あきらめず、何度でも挑戦する【勇気】
q2_7	1日何回も友だちとメールをする【ダミー】
q2_8	地域の一員であることを自覚して、行動する【公共心】
q2_9	スポーツの試合などで、フェアに力いっぱいプレーする【フェア】
q2_10	約束の時間に遅れて家に帰る【ダミー】
q2_11	地球上の生命の一つとして、自然の恵みの中で生きていることを大切にする【感謝】
q2_12	テレビゲーム(ニンテンドーDSなど)が上手になる【ダミー】
q2_13	自分の目標に向かい、努力し続ける【やりぬく心】

Table 2-2 テーマと将来への希望（小学生・中学生別）

	小学生			中学生		
	1年校	3年校	t 値	1年校	3年校	t 値
	平均値 (SD)	平均値 (SD)		平均値 (SD)	平均値 (SD)	
あいさつ	4.40 (0.82)	4.36 (0.90)	0.79	4.20 (0.90)	3.96 (1.00)	3.83***
思いやり	4.56 (0.72)	4.52 (0.77)	0.79	4.44 (0.75)	4.23 (0.89)	3.97***
責任	4.41 (0.85)	4.37 (0.90)	0.77	4.06 (0.91)	3.81 (1.09)	3.86***
良心	4.32 (0.93)	4.36 (0.95)	0.61	4.23 (0.96)	4.09 (0.99)	2.20*
勇気	4.57 (0.77)	4.58 (0.81)	0.25	4.45 (0.81)	4.22 (0.98)	3.96***
公共心	4.01 (1.04)	4.07 (1.06)	0.98	3.78 (1.02)	3.61 (1.02)	2.57*
フェア	4.31 (0.98)	4.31 (1.01)	0.03	4.33 (0.93)	4.07 (1.08)	4.03***
感謝	4.20 (1.02)	4.27 (0.97)	1.27	4.00 (1.03)	3.79 (1.06)	3.04**
やりぬく心	4.75 (0.60)	4.74 (0.66)	0.30	4.62 (0.74)	4.42 (0.88)	3.79***
ダミー						
q2_4	2.58 (1.20)	2.37 (1.16)	3.10**	2.94 (1.08)	3.01 (1.20)	0.91
q2_7	1.85 (0.99)	1.86 (1.02)	0.13	2.81 (1.21)	2.70 (1.16)	1.33
q2_10	1.45 (0.91)	1.47 (0.95)	0.25	1.75 (1.02)	1.90 (1.07)	2.17*
q2_12	2.30 (1.26)	2.23 (1.23)	1.04	2.58 (1.16)	2.74 (1.27)	1.91

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$ 

### 1) テーマと行為の実践

**小学校の場合** 3年校の方が「あいさつ」「公共心」「感謝」「やり抜く心」をよく実行していると評価している。ダミー項目にはほとんど差がないこと、つまり取り上げたものだけに差が見られることから、小学生の差は、取り組みの成果と言えるだろう。

**中学校の場合** 全ての項目で1年校の方が、良く実行していると意識しているものが多い。しかし、ダミー項目を見ると、3年校の方が高いものが1つあり、他は統計的な差が見られない。つまり、ダミー項目は結果に偏りがあるのに、テーマに関しては結果に偏りがない。このことは、毎月のテーマに関しては、ある一定の影響が見られること、つまり学校での取り組みの成果が見られることを意味している。

その成果とは、良い方に作用したとポジティブに解釈するならば、テーマに関して周囲も自分も意識する中で内省力が上がって、自分の行動を比較的厳しく評価するようになったと解釈できる。他方で、よくない方向に作用したとネガティブに解釈するならば、この取り組みで自分の行為を高く評価できない部分をつくっているとも読み取れる。

### 総合考察

調査1のTable 1-2, Table 1-3, Table 1-5の再認率より、学校の取り組みは、3年校の方が高くなっているものが多いことがわかった。このことから、テーマそのものやポスターの文言について、記憶に残るといふ成果は確かに見られることがわかった。

次に、調査2の結果より、将来への展望に関しては、取り組みの何らかの影響は見られた。しかし本研

究では、それがポジティブな影響なのか、ネガティブな影響なのかは本研究では明らかにできなかった。最後に調査3の行為の実践に関しては、Table 3より、小学校で3年校の方が高くなっていた。つまり、小学生では、学校での取り組みの成果は、児童自身に実行に移していると自己評価されていることが示された。

調査Iの再認テストの結果に見られるように、品格のテーマは、小学生でも中学生でも、記憶の中には残っていることがうかがえる。他方で将来への展望や行為の実践については、中学生の結果が不安定で、必ずしも明確な結果が得られなかった。しかし記憶としては確実に積み上がっているようなので、これらの記憶が今後、将来の展望や行為の実践にどのように影響して行くのか、もう少し長いスパンでの研究が必要だと考えられる。

中学生になると、パフォーマンスが下がることについては、次のことが考えられる。ひとつには、思春期・反抗期そして内省力の発達の影響である。これは、Table 1-4に示した下がり幅を降べきの順で並べた結果から窺えるように、小学生との差が大きいものが1年校でも3年校でも共通していることからもうかがえる。

さらにもう一つの可能性が考えられる<sup>4)</sup>。Table 1-3のポスターの文言の再認率を見ると、中学校では、ダミー項目の再認率よりもテーマの再認率がかなり低いことがわかる。この結果は、もしかしたら、中学校になると、学校の中での話題は勉強や部活、メディア等の話題が相対的に増え、その結果として、毎月のテーマに関するものに触れる回数が相対的に減ることを意味しているのかもしれない。その結果、中学生になると、どうしても生徒達の意識の中で、毎月のテーマの

Table 3 テーマと行動（小学生・中学生別）

	小学生			中学生		
	1年校 平均値 (SD)	3年校 平均値 (SD)	t 値	1年校 平均値 (SD)	3年校 平均値 (SD)	t 値
あいさつ	4.04 (0.94)	4.19 (0.87)	2.83**	4.00 (0.96)	3.75 (1.02)	3.97***
思いやり	3.74 (0.91)	3.81 (0.91)	1.37	3.83 (0.85)	3.55 (0.94)	4.67***
責任	3.74 (1.09)	3.64 (1.11)	1.51	3.26 (1.08)	3.21 (1.12)	1.96
良心	3.50 (1.06)	3.53 (1.01)	0.61	3.54 (0.90)	3.37 (0.92)	2.89**
勇気	3.85 (1.07)	3.97 (1.02)	1.94	3.66 (1.03)	3.43 (1.05)	3.27**
公共心	2.98 (1.17)	3.25 (1.17)	3.89***	2.92 (1.08)	2.76 (1.05)	2.38*
フェア	3.71 (1.32)	3.85 (1.27)	1.87	3.86 (1.16)	3.64 (1.21)	2.85**
感謝	3.40 (1.22)	3.61 (1.18)	2.99**	3.37 (1.06)	3.05 (1.07)	4.62***
やりぬく心	4.05 (1.02)	4.16 (0.95)	1.99*	3.86 (1.01)	3.65 (1.03)	3.07**
ダミー						
q3_4	2.79 (1.34)	2.73 (1.34)	0.83	3.00 (1.34)	3.01 (1.34)	0.04
q3_7	1.48 (1.06)	1.47 (1.00)	0.18	2.89 (1.36)	2.56 (1.37)	3.60***
q3_10	2.08 (1.07)	2.07 (1.10)	0.06	2.55 (1.16)	2.48 (1.14)	0.99
q3_12	2.73 (1.33)	2.61 (1.37)	1.55	2.64 (1.21)	2.86 (1.36)	2.61**

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

比重が相対的に小さくなってしまふ。こうしてテーマの再認率が小学校よりも下がるのかもしれないとも考えられる。

いずれにしても今後は、思春期・反抗期の影響、内省力の発達、取り組み期間の格差等、これらの要因を考慮した成果を測定する方法を考えるとともに、長いスパンで成果を測定して行く必要があるだろう。

## 【引用文献】

- 青木多寿子 (1999). アメリカの小学校— The basic school 実践校のケースレポート— 岡山大学教育学部附属教育実践総合センター研究年報, 2, 11-20.
- 青木多寿子 (2002). アメリカの小学校に見る品性徳目教育とその運用 岡山大学教育実践総合センター紀要, 2, 47-59.
- 青木多寿子 (2011). もう一つの教育；よい行為の習慣をつくる品格教育の提案 ナカニシヤ出版
- 新 茂之 (2011). 品格教育と倫理学 青木多寿子編 「もう一つの教育；よい行為の習慣をつくる品格教育の提案」 ナカニシヤ出版
- Boyer, E. (1995). *The basic school: a community for learning*. San Francisco: Jossey-Bass. (ボイヤー, E. 中島章夫 (監訳) (1997). ベーシックスクール：アメリカ最新小学校改革提案 玉川大学出版部)
- 加藤十八 (1999). アメリカの事例から学ぶ学力再生の決めて 学事出版
- 加藤十八 (2004). アメリカの事例に学ぶ学力低下からの脱却—キャラクター・エデュケーションが学力を再生した 学事出版
- 加藤十八 (2006). ゼロトレランス—規範意識をどう

育てるか 学事出版

- Lickona, T. (1992). *Educating for character: how our school can teach respect and responsibility*. New York: Robin Straus Agency, Inc. (リコーナ, T. 三浦 正 (訳) (1997). リコーナ博士のこころの教育論：「尊重」と「責任」を育む学校環境の創造 慶應義塾大学出版会)
- 水野修次郎 (2005). 訳者解説 リコーナ T. 水野修次郎・望月文明 (訳) 人格教育のすべて 麗澤大学出版会
- Ryan, K. (2010). アメリカにおける道徳教育の動向と今後の展望—新しいものと古いもの：アメリカ合衆国の道徳と人格教育 (character education) の状況考察 日本道徳教育学会第75回大会論文集, 186-196.
- Ryan, K. & Bohlin, K. E. (1999). *Building Character in Schools; practical ways to bring moral instruction to life.* Jossey-Bass A Wiley Imprint
- 【注】
- 1) 本研究を遂行するにあたり、日本学術振興会からの研究費 (①基盤 B, 課題番号23330263, 代表：青木多寿子, ②挑戦的萌芽研究, 課題番号22653119, 代表：青木多寿子) を使用した。
  - 2) ただし、児童生徒にこのテーマを強要しないために、教師全体の共通理解として、教師達はあまり頻繁にこれらの言葉を使ったり、これらの言葉で説教したりしないこととして、あくまで、児童生徒が、自ら気付くように配慮している。
  - 3) 初年度から実施した研究指定校の小学校が研究指

定校の中学校に接続しているわけではない。したがって、小学校の研究指定校は3年間の積み上げの成果といえることができるが、中学校の方は、3年校といえども、1年生は小学校時代に1年間、2年生は中学校に入って2年間の積み上げしかないことに

なる。

4) 他方で、前述のように、中学校の3年校の2、3年生は、小学生と違って、調査の時期までに、実際は1～2年の取り組みしか経験していないことも影響している可能性がある。

補則資料1：3年校での小中学生の差

カテゴリ	項目内容	3年校		差	
		小学生	中学生		
q1_10	勇気	素直に謝ります	68.4	26.2	42.2
q1_6	公共心	公共物などへの落書きはしません	67.1	32.4	34.7
q1_3	あいさつ	「いただきます」と「ください」	66.9	34	32.9
q1_8	良心	友だちにも、自分にも誠実に	68.7	45.3	23.4
q1_15	フェア	広い心で受け入れます	56.6	35.1	21.5
q1_21	責任	最後までやり遂げます	59.9	38.8	21.1
q1_1	感謝	「ありがとう」と言います	77.5	60.4	17.1
q1_17	やりぬく心	一步一步努力します	42.2	34.5	7.7
q1_19	ダミー	国際性	87.6	79.9	7.7
q1_13	勇気	勇気	90.4	84.3	6.1
q1_9	ダミー	スピード	87.9	82.9	5
q1_18	感謝	感謝	96.8	92.2	4.6
q1_2	フェア	フェア	84.4	80.2	4.2
q1_24	思いやり	親切を心掛けています	41.6	38.4	3.2
q1_20	あいさつ	あいさつ	97.4	95.3	2.1
q1_5	ダミー	体力をつけます	86.3	84.3	2
q1_4	思いやり	思いやり	97.2	95.5	1.7
q1_7	責任	責任	93.4	92.1	1.3
q1_14	ダミー	科学	91.2	90.4	0.8
q1_22	良心	良心	92.2	91.5	0.7
q1_11	やりぬく心	やりぬく心	90.8	90.3	0.5
q1_12	ダミー	生きる力を高めます	68.7	70.4	-1.7
q1_16	公共心	公共心	79	81.3	-2.3
q1_23	ダミー	幸福感があります	72.6	83.6	-11

補則資料2：1年実施校での小中学生の差

カテゴリ	項目内容	1年校		差	
		小学生	中学生		
q1_10	勇気	素直に謝ります	62.9	26.8	36.1
q1_6	公共心	公共物などへの落書きはしません	60.9	29.5	31.4
q1_3	あいさつ	「いただきます」と「ください」	58.3	33.7	24.6
q1_8	良心	友だちにも、自分にも誠実に	66.4	44.4	22
q1_21	責任	最後までやり遂げます	50.6	36.2	14.4
q1_13	勇気	勇気	92.4	78.4	14
q1_15	フェア	広い心で受け入れます	51.3	38.3	13
q1_22	良心	良心	96.2	86.9	9.3
q1_14	ダミー	科学	95.9	87.3	8.6
q1_19	ダミー	国際性	90	81.4	8.6
q1_9	ダミー	スピード	88.2	79.7	8.5
q1_2	フェア	フェア	86	78.6	7.4
q1_1	感謝	「ありがとう」と言います	71	65.1	5.9
q1_12	ダミー	生きる力を高めます	73.1	67.4	5.7
q1_11	やりぬく心	やりぬく心	91.9	87.2	4.7
q1_18	感謝	感謝	96.2	92	4.2
q1_5	ダミー	体力をつけます	86.4	84.5	1.9
q1_20	あいさつ	あいさつ	95.2	93.8	1.4
q1_24	思いやり	親切を心掛けています	38.9	37.8	1.1
q1_4	思いやり	思いやり	97.3	97.3	0
q1_16	公共心	公共心	74.7	75.7	-1
q1_7	責任	責任	93.8	96	-2.2
q1_17	やりぬく心	一步一步努力します	36.1	38.4	-2.3
q1_23	ダミー	幸福感があります	76.8	80.3	-3.5